

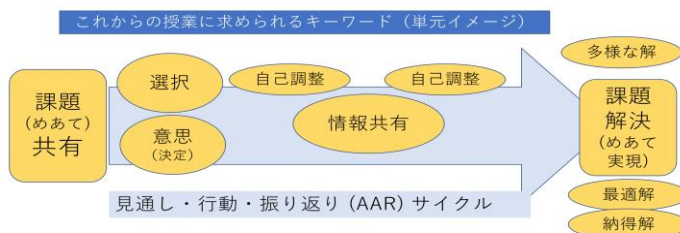
(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryu UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
 ※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 国立大学法人 宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻
	事業名： 児童・生徒の「資質・能力」を育む授業づくり －「指導と評価の一体化」の充実を目指して－
	研修等名：【NITS コラボ研修】 児童・生徒の「資質・能力」を育む授業づくり －「評価」からの授業づくりの実際と工夫－
	開催日時：令和 5 年 8 月 3 日 10 時 30 分から 12 時 開催場所：国立大学法人宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市峰町 350） 参加人数（総数）と参加者の属性：（84 人） 小・中・特別支援学校教員 36 人、教育委員会関係者 23 人、宇都宮大学教職大学教員・院生 23 人、その他 2 名

内容：

研修当日は、まず、大妻女子大学の澤井陽介教授から講話「児童生徒の『資質・能力』を育む授業づくり～指導と評価の一体化の充実を目指して～」を頂いた。中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』（令和 3 年 1 月）に示された「個別最適な学び（個に応じた指導）」と「協働的な学び」の関係について詳しく説明がなされ、「主体的に学ぶ子供」の具体的なイメージが共有された。また、改めて「授業」に必須の要素（課題、活動、まとめ、教材、内容）とは何かを踏まえ、不断の授業改善の必要性などについて説明があった。そしてこれからの授業に求められるキーワードについて提示があった（図）



さらに「資質・能力」を育む授業づくりのポイントとして、①目標をよく考える、②教師目線と子供目線をあわせもつ、③単元のプロセスを重視する、④子供の言葉や文脈を引き出し、思考や理解を更新していくようにする、⑤目標の実現に迫る「手立て」を講じる、といった具体例が示された。その後、指導と評価の一体化の充実を目指すために「目標に準拠した評価」における「妥当性」を心がけること、学習評価の基本は指導に生かし子供の学力を伸ばすこと、評価基準は学習活動に即したものと「概ね満足」ラインを簡潔明瞭にすること、「主体的に学習に取り組む態度」では主体的に取り組む学習活動を工夫した際に「自分の学び」を振り返るようにすること、教科等ごとに年間を通して育む資質・能力をマネジメントすること、以上のことが具体的な実践例の例示と共に紹介された。

これらの講話を踏まえて、参加者は自らの日頃からの授業実践を省察し、参加者どうしの「対話」が多く見られた。

成果：

本事業の成果として、参加者が、澤井陽介氏の講話を踏まえ、「指導と評価の一体化」を企図して「評価」からの授業づくりを行うための実際と工夫について深く省察する機会になったことが挙げられる。

当日の参加者の感想のごく一部を下記に示す。

「評価と指導の一体化を難しく考えすぎていたと感じました。先生のお話を伺い、明日からまた頑張ろうという活力を頂きました。ありがとうございました。」、「指導に生かす評価が大切なことが改めて分かりました。『主体的な学び』について先生の言葉で分かりやすく、自分で課題をもち、課題追究・課題解決でトライアンドエラーしながら取り組む粘り強さ、課題について振り返り次につなげる自己調整の場を設けることが大切だと分かりました。」、「主体的な学びについて、改めて学ぶことができました。課題はみんなで共有後、その課題解決のプロセスは子どもに選択させ、解決のゴールは共有するという単元イメージがとても印象に残りました。」、「先生のご講話の中で、現場にて日頃思うところと合致することが多々あったので、自分の取り組みを見直すことができました。」

以上のように、講演者の講話を一方的に聞くだけではなく、これまでの自らの授業実践を省み、明日への示唆を得るといった参加者の姿が多く見られた（写真を参照）。

アイデアや工夫したこと：

・宇都宮大学教職大学院の「ホームカミングデー」企画と連動させることで、現役の教職大学院生に加え、教職大学院修了生が多く参加できるようにすること、またその勤務校の同僚の先生方を誘うように広報する等多くの意欲ある先生方が参加するように日程を工夫した。

・宇都宮大学教職大学院の「ホームカミングデー」企画と連動させ、講話の後に設けた「ラウンドテーブル」などにおいて講話の視点を含めた日頃の授業実践の省察を行えるように工夫した。

・栃木県教育委員会及び栃木県総合教育センターにも周知し、教育行政関係者及び指導主事が多く参加できるように企画し、教職大学院と行政機関の連携のあり方について検討できるように工夫した。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

